

第5回鳥取県ふうせんバレーボール大会・パラレルルール 競技上・審判上の確認事項

- ◎コート:バドミントンの外側ライン。サービス(アタック)ライン=1. 98mから2. 5mに変更
◎メンバー構成:ハンディープレーヤー=3~5名。
アドバンテージプレーヤー=1~3名 合計6名とする。
- ◎接触回数:全員(6名)が触れ、10打以内に相手コートに返球する。
- ◎ボールのアウト・イン:接地点がライン上であればインとする。
ネット上を通過して返球されればインとする。
コート外の床、人、物にボールがふれた場合はアウトとする。
- ◎ゲーム進行:コートキャプテンのジャンケンでサーブ権を決めておく。
両チーム主審側からゼッケン順でサービスラインに沿って整列する。
原則として1・3・5番をハンディープレーヤーとする。
主審のホイッスルで挨拶し、ゲームに入る。
(ゲームの進行は主審が行う、プレーヤー等の判断でプレーを止めない。)
- ◎サーブ:2本以内にネットに触れずに相手コートに打ち込む。
車椅子使用者は、サービスラインより前でサーブを打ってもよい。
また、サーブトス・サーブ後1打のアシストを受けることが出来る。
互いのチームが、得点に関係なく順番にサーブを打つ。
- ◎レシーブ・パス・返球:
全員が接触し、10回以内であれば、同一競技者は2回までプレーすることが出来る。(審判は全員が触れたかを確認する。)
・同一競技者が連續して触れるることは出来ない。
・一連の動作の中でのダブルタッチは、主審の判断によりOKとする。
・ラリー中に車椅子等にボールが触れた場合はカウントしない。
- ◎アタック:ゼッケン番号1・3・5の選手しかできず、立位者は原則としてアタックライン後方から打つ。ジャンプしてのアタックできない。
- ◎反則について
・全員が触れる前に相手コートに返した場合・・・ナットオール
・10打以内に相手コートに返球できない場合・・・オーバータイム
・一人の競技者が連續してボールに触れた場合・・・ドリブル
・ボールを持ったり、運ぶようなパスをした場合・・・ホールディング
・サーブやアタックをジャンプして行った場合・・・ジャンプアタック
・ボールを操作するためにネットに触れた場合・・・タッチネット
・相手コート上でボールに触れた場合.....オーバーネット
・サーバーやアッカーがサービスライン=アタックラインを踏んだり、踏み越したりしてプレーをした場合・・・オーバーライン
- ◎ゲーム終了:10分の試合時間又は15得点先取のラリーポイント制。
サーブラインに整列し、向かい合う選手と握手をしゲーム終了。

補足説明

- *複数競技者が同時に触れた場合・・・それぞれのカウントとするが、次のボールは誰が触れても良い。
*ドリブル・・・2度打ち、明らかに両手ばらばら、身体に当たってから打つ。
*ホールディング・・・手に乗せ運ぶ、つかむ、ネット・身体で挟み込む。
*アタック・・・相手コートに打ち込む行為を全てアタック。 ●アタックの反則・・アドバンテージプレーヤーがネットより高い位置から、ネット通過時水平より鋭角にアタックした場合。